



# CIF-JAPAN

NEWSLETTER No.18

Council of International Fellowship

発行人 CIF-JAPAN 事務局長 坂本正路

発行日 2007年11月

## CIF-Japan の再出発にあたって

### —就任ご挨拶—



#### 会長 竹内和利

**CIP 参加:1994年インディアナポリス**

このたび先の総会において会長にご選出いただき、CIFの使命をあらためて重く受け止

めているところです。前田大作前会長の後をうけ、CIF-Japan を会員の皆様と共に再出発させたいと願っております。どうかよろしくご指導ご支援の程お願い申し上げます。

ご存じの方も多しとおもいますが、日本から米国 CIP プログラムへの参加者は 1962 年以来今日まで 135 名に達しました。けれども 1 名の例外を除き、2000 年を最後に参加は途絶えております。これは 1990 年代後半に全社協・国際社協日本国委員会による事務的支援が停止したことによるものであります。以後 CIF-Japan は CIP 参加者有志による任意団体として規約を設け、会費を徴収し、会報を発刊し、又 CIF 国際本部との連携を保って存続してまいりました。

CIP への最初の参加から 45 年経ち、又 CIP が創立 50 周年を迎えた今日、私共の CIF-Japan はあらためてこれからの歩みを考えねばならない時期を迎えております。

先の総会でご出席の方から「CIF は同窓会ではなかったのですか？」という質問が寄せられましたが、時機をえたご発言であったと思っております。実は一会員として私はこれまで、国内の会員方とはさておき、CIP 参加当時の外国の友人たちと Reunion と称して文字どおり親睦本位の同窓会にたびたび足を運んできました。そのたび重なる交流が国際大会への参加を動機付けたと今おもい返します。じつに副会長の坂本正路氏とは二度にわたり国際大会に参加できましたが、

CIF ドイツの一会員とベルリンで知己にならなければ、坂本さんとお知り合いになることもなかったでしょう。

CIF の国際活動に眼を向けますと、近頃キプロス、キルギスタンの新規加入にニュージーランドとオーストラリアの分離加入をくわえて 31 カ国が加盟することとなり、さらに新規加盟が企図されています。又加盟国中 10 数カ国がそれぞれ独自の交流プログラムを定期的に開催し、11 カ国がインターネットサイトにホームページを開設して各国に参加と交流を呼びかけております。

又米国 CIP プログラムは、かつて 27 の地域に提携団体を有しましたが、現在は 8 カ所でプログラムが展開されています。そしてわが国に眼を転じますと、こんにち CIP プログラムはその存在すら忘れられています。けれども米国はじめ各国に学びをもとめる対人サービス従事の若者の数は、各種社会福祉施設はじめ、社会福祉団体、NPO 諸団体を含めると、1990 年代よりはるかに増加しているのではないのでしょうか。現に会員さんの中からも後輩の派遣についてご相談をうけることがございます。

CIF 活動の基礎となる理念には、その根底に国際理解、世界平和進展への寄与ということがオーレンドルフ氏の遺志をうけて存在しますが、ボンの国際大会で採択されたミッション・ステートメントによれば、「CIF は異文化交流を通じて対人サービス従事者の向上とそのトレーニングに寄与する」とあります。そしてこの言葉にはどなたも賛同されるとおもうのですが、CIF-Japan の現状を顧みますと、その実践にはほど遠いどころか、縁遠いというおもいに至らざるをえません。

CIF-Japan のおかれている今日の状況は、CIP 参加者の同窓会(Alumni Association of CIP)に止まる状況ではもはやなく、以前に前田前会長や小池嘉夫氏が熱心に設立を企図された NPO などの公的認可をうけた団体として、CIF の理念に沿

う活動を目指すべきではないでしょうか。早晚これらのことは実現出来ませんが、会員各位のご意見を仰ぎ、可能なことから実行していきたいとおもいます。重ねて皆様方の一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。

(賢明女子学院短期大学福祉支援学科教授、京都府在住)

## CIF ジャパンの発展を願って



### 副会長・事務局長 坂本正路

1971年 コロンバス

この度の総会で事務局長という重責に選任されましたが、今まで活躍されました小池前事務局長には遠く及びませんが、CIF 発展のために誠実にその役割を遂行して行きたいと思っております。

私は 2003 年のインド、ゴアでの国際大会以来、2005 年のボン、そして今年のクリーブランドと、3 度続けて大会に参加いたしました。参加のきっかけはドイツのゲルハルト (1971 年にコロンバスで共に CIP に参加) から、ゴア大会の参加を強く勧められたためでした。ゲルハルトの手紙に「今年はアジアでの初めての開催だから是非参加してほしい。そして久しぶりに君にも会いたい」と書かれていました。大会のテーマも「家族とその福祉」でしたので興味があり、参加を決めました。

参加するからには日本の現状も報告する事が良いと考え、「日本における児童虐待とその対応施策について」と題して臆面もなく分科会で発表いたしました。大会を通じて感じたことは、参加者が大変熱心に福祉を中心にした課題を話し合う姿勢と、参加者間の和気あいあいとした交流の温かさでした。この雰囲気はどのような学会にもない、宝であると感じております。再来年 (2009 年) はフィンランドで開催されますが一人でも多くの日本の会員の参加を期待しております。

さて、私の CIF ジャパンに対する期待は会の活性化です。そのために二つのことを提案いたします。

### (1) 各国で開催されている CIF プログラムに日本からの参加者を送り出すこと

今年も 10 数カ国で開かれています。期間も参加費用もまちまちですが、外国で学びたいと思う者にとっては、これほど良い学びの機会はないと思います。詳細は下段に記載のホームページをご覧ください、会員の皆様には積極的なプログラムの宣伝をお願いいたします。新しい参加者を得ることが出来れば、会の若返りにもつながりますし、活動の活性化も考えられます。

### (2) 将来、日本において CIF 大会を開催すること

この提案は私の夢ですが、実現は無謀で失笑に値すると思われる事柄です。その理由は日本が経済面と語学面でハードルが高すぎるからです。しかし、今までの大会も開催国の CIF がいろいろ努力して開催しておりました。まず経済面ですが、会場としては大学や企業の研修所を借りることが出来れば、かなり費用を軽減できると思われますし、運営費は企業のスポンサーを得ることが必要でしょう。語学面での問題については今後の課題としたいと思います。

ところで、現実的な今後の計画について、考えを述べさせていただきます。

○役員会 2008 年 2 月頃開催したい (含会則変更)

○総会 2008 年 5 月頃開催したい

○ニュースレター 総会のあと、報告を兼ねて 9 月頃に発行したい。

会の活性化のために積極的なご意見をお寄せください。よろしく願いいたします。

(東洋英和女学院大学・非常勤講師、神奈川県在住)

2008 年 CIP/CIF INTERNATIONAL EXCHANGE PROGRAMS については、下記のホームページをご覧ください。

CIP USA: <http://www.cipusa.org/core.asp>

CIF INT'L: <http://www.cifinternational.com>